

令和7年度第2回川南町総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和7年10月29日（水）午前9時～10時30分
- 2 場 所 川南町生涯学習センター 1階会議室
- 3 出席者 宮崎吉敏町長  
平野博康教育長、椎木祐司教育長職務代理者、日高美枝子委員、  
染川龍子委員  
学校教育関係：三浦哲至校長会会長、谷口勇人校長会副会長  
社会教育関係：島岡武代表社会教育委員  
三好益夫教育課長、村中田博教育対策監、橋口実課長補佐、  
阿久根浩史課長補佐兼文化スポーツ係長、永田佳代学校教育係長、  
瀬戸口勝也教育施設係長、中村憲一郎生涯学習係長、  
古小路祐一郎指導主事

○橋口

ただ今から「令和7年度第2回総合教育会議」を開会します。まず始めに、宮崎吉敏町長より御挨拶をお願いします。

○町長

おはようございます。10月19日、小学校の運動会に参加させていただきました。非常に元気で、この子たちが将来の川南町を担ってくれるのかと思うとうれしい気持ちでいっぱいでした。今、中学校統合のことで、12月議会に基本計画を提出するように教育長をはじめ、教育委員会で動いてくれています。いろいろな意見を聞いています。子どものためという視点に立ってみると残念と思われるものもあります。私たちの責任として、将来の川南町を担ってくれる子どもたちのために、環境を整えることが大事だと思っています。ある本に「教育こそが未来をつくる最大の投資である。」と書いてありました。まさにそのとおりだと思います。12月議会で基本計画の承認がいただけたら、様々な形で町民の皆様に必要な等を訴えていきたいと考えています。これからも教育委員会の皆様には大変な御苦勞をお掛けしますが、皆様の思い描いた新中学校設立に向けて、共に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○橋口

ありがとうございました。続きまして、3、教育施策及び予算等の意見聴取に入ります。総合教育会議は、町長が招集することとなっていますので、町長に会議の議長をお願いするところですが、町長からもたくさんの御意見をいただきたいと思いますので、本日の会議の議長は、平野教育長にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>の声あり

○教育長

それでは、学校教育、社会教育施策の意見聴取に入りたいと思います。まずは、学校教育関係からお願いします。

○三浦校長

本年度の町総合教育会議には、校長会会長、山本小、三浦と副会長、唐瀬原中、谷口が出席させていただきます。よろしくお願いします。はじめにお礼を申し上げます。

本年度、公金・準公金のMネットによる管理システムを設置していただきました。教職員における現金での取扱業務がなくなり、Mネットによる会計管理が構築され、会計報告もスムーズに行われている状況です。また、小学校2校において複式学級解消におけた会計年度任用講師の確保や中学校における通級指導教室設置をしていただき感謝しております。さらには、町内小中学校の体育大会・運動会への御出席ありがとうございました。今後も町内児童生徒の活躍を応援していただきますようよろしくお願いいたします。

では、資料について説明いたします。今回の会議に出席するにあたり、校長会として協議し資料を作成しました。「ふるさと川南の教育」の施策目標の4つの観点から、学校が町から受けている支援や援助、又は今後お願いしたいことなどを、箇条書きで示しております。各項目の終わりに、【継続】とあるものは続けて支援していただきたいことです。また、【拡充】は更に充実していただきたいこと、【新規】は来年度から新たに支援していただきたいことです。それでは、施策目標順に説明させていただきます。

施策目標Ⅰの(Ⅰ)及び施策目標Ⅱの(Ⅰ)は、地域学校協働活動推進員の方々の多大なる尽力を得て、学校と地域をつなぎながら様々なふるさと学習や各学校の特色ある行事を実施できております。また、各学校依頼や要望等に快く引き受けて綿密な打ち合わせや連絡・調整をしていたいただいているおかげで、職員の負担軽減がなされています。くわえて、コミュニティ・スクールの体制づくりや運営への参加、指導・助言についても感謝いたしております。今後とも、御協力をお願いいたします。

施策目標Ⅰの(2)(3)は、町の依頼を受けて公民館単位で地域防災机上訓練が行われましたが、子どもたちの命を守るためにも地域住民と学校合同の防災訓練の必要性和避難所として機能するための設備の充実を感じています。是非、町が先導して、南海トラフ大地震を想定した実践的な合同訓練や避難所として機能するための設備等の充実を行っていただきたいと思います。

なお、総務課危機管理対策室との連携の下、小中学校における避難設備、備品について充実が図られようとしています。ただ、空き教室との関係で、保管場所が設置できない学校もございます。屋外において、保管コンテナの設置など検討していただけたら助かります。

施策目標Ⅱの(2)検査・テスト・検定への補助についてです。今年度、小6英検ジュニア及びRSTを廃止し、新たに児童生徒の認知能力と体力を調べる検査費の補助をお願いしましたが、次年度も引き続きお願いしたいと考えております。NINOは、学習を進める上で必要とされる教科横断的な力「認知能力」を把握し、授業や学習の改善、学びに向かう力や学力の向上に役立て、21世紀に求められる資質・能力の育成のための検査です。本町では学習指導要領の観点に基づいた学力を調べるCRT学力検査を行っていますが、応用力を把握するNRT学力検査を実施すると合理的相関関係が把握できるものです。体力テストは毎年行う体力テストの結果を業者に集計してもらい個別ごとに運動量や生活習慣などと体力との関係を分析してもらい体力向上を図るための資料として生かすものです。是非、御検討をお願いいたします。(3)公営塾については、引き続き中学校で実施していただけたらと思います。(4)田植え関係の補助については、例年どおり各小学5年生の学習の一環として支援していただきますようお願いいたします。

施策目標Ⅲの(Ⅰ)人的配置についてです。①については今年度、要望が叶っておりますが、次年度も引き続き継続していただけると助かります。町内各校は、それぞれに課題を抱えておりますが、その課題に応じて各校で柔軟に職務内容を決めることができる会計年度任用講師の配

置をいただけると、個に応じた指導の充実が図られ、誰一人取り残さない学習指導や特別支援教育などに寄与できるものと考えます。②から⑤は過年度からの配置をしていただき、感謝申し上げます。特に複式学級のある小学校においては、複式解消のための会計年度任用講師を任用していただき学びの充実が図られております。いずれも児童生徒の教育に直接・間接的に寄与し、また複式学級担任への支援や負担軽減策としても効果的な人的配置となっています。複式解消のための講師について可能であれば、令和7年度と同じように校務分掌負担軽減及び働き方改革のためフルタイムの講師任用をお願いできたらと思っています。

⑥～⑧については拡充としてあげております。⑥については、できれば1名増員をしていただき、配置された学校ばかりではなく他校へのサポートもお願いできればと考えております。⑦については、これまでも充実を図るべく対応いただいておりますが、特別支援学級に所属する児童数も今後増加の傾向なので、更なる補充をお願いいたします。⑧については、部活動の地域移行推進に伴い「部活動指導員」配置拡充に大変感謝しております。今後、拠点校方式の採択もお願いできればと思います。

ただし、例外的な事例として、地方公務員の兼職・兼業の禁止にかかる縛りから、町役場正職員で、部活動指導に携わっていただいておりますが、未だに身分が「部活動指導員」に至っておらず、「外部指導者」扱いのままであります。平日の役場勤務時間外の時間帯又は勤務に携わらない週末等（土・日・祝祭日）の部活動指導に本当に献身的に御指導いただいておりますが、部活動指導手当（身分：会計年度任用職員）の支給について対象外となっています。遜色なく同じ部活動指導に従事いただいているながら、一方は手当付き、一方は手当なしの格差の解消について是非とも配慮をお願いしたいと考えています。

⑨については、以前にもお願いしたことがありますが、技術員の学校1名配置をお願いできたらと考えていましたが、各学校に刈払い機、ブロアー等の機械の購入をお願いできたらと思います。機械等があれば日常の環境整備を学校の職員で行うことができると考えております。

(2)の教職員の働き方改革につながる体制整備についてです。①は県内多くの学校で喫緊の課題です。育休や休職の欠員補充が見つからない状況があります。それだけでなく、新年度に正規職員の配置がなく欠員で対応しなくてはならない状況がでてきますが、その補充も見つかりません。ここ数年、町内のみならず、県内、全国で同様の傾向があります。現在、欠員補充を探すのは校長が中心となります。任用するのが校長であるため、もちろん校長もやらねばならない業務であります。全県・全国的に講師不足であるため1人では限界があります。昨年度、行政（町教委）の協力をいただいておりますが、今年度も講師探しに、更に関わっていただけるとありがたいです。

②については、今年度、教員が現金を扱わずに済む環境づくりとしてMネット代金回収サービスへの初期費用の補助や導入に関する支援を町教育委員会が先導して進めていただいております。引き続き、補助をいただきながら、進めていければと思います。昨年度、川南町の小中学校では、諸会費、例えば、日本スポーツ振興センター掛け金や鑑賞教室代など、学年・学級会計、いわゆる教材費や副教材費は学級担任や学年会計を担当している教員が現金で扱っていました。基本的に徴収した現金は金庫で保管し、その都度業者へ支払いをしていましたが、現金を金庫に保管することは禁止されており、懲戒処分の対象となっていました。このような課題や問題が解消されて、大変ありがたく思っているところです。

③については、これまでの川南町の慣例で県事務が町事務の仕事をしている現状がありまし

た。令和7年3月に規定が制定され、県事務と町事務の業務のすみわけを明確にさせていただきました。引き続きお願いできたらと思います。

また、④に示した、3大開拓地交流事業において、各小学校の教頭が関わっている状況がありますが、十和田町、矢吹町の教員の引率はありません。また、夏季休業中は、休暇が取りにくい状況があり、さらに、この事業への参加があると支障をきたすこともあります。是非、教育委員会、生涯学習係の中で進めていってほしい願いがあります。

(3)④については次年度も継続をお願いします。

(5)については、本年度、中学校に通級指導教室を新設、小学校に増設（ことば・学び）いただき感謝申し上げます。また、今年度は、通級指導教室に通えない各校にいる困り感を抱えている児童生徒のために巡回通級指導教室の開設をしていただきました。巡回指導教室が開設されることで、これまで支援ができなかった多くの児童生徒の学ぶ意欲の向上や特性に応じた適切な支援ができ、本人のよさを伸ばすことができると考えますので、次年度も引き続きお願いします。

(6)については、本年度よりA I型ドリルを小学校3年生以上に導入していただき感謝申し上げます。今後、ドリルの持ち帰りの頻度を多くし、使用促進を図っていきたいと思います。授業では、個別学習に積極的に活用しており、児童生徒の学力向上に役立っています。また、各自の進捗状況を担任が把握できるため、職員の働き方改革にもつながるものとなっています。

しかしながら、小学校1～2年生においては、導入されていないためA I型ドリルの活用ができません。来年度は是非小学1～2年生にも導入していただきますようお願いいたします。

(7)については、現在導入されているジャストスマイルとあわせて、学習支援ソフト「ロイロノート」の導入をお願いしたいです。ロイロノートがあれば、動画・写真・音声・PDFなどを指1本で簡単に編集やプレゼンを作ることができたり、友だちや先生と共有することができたり、紙のノートのように授業で活用できるので学習効率も格段に向上できます。また、授業支援ソフトとしても活用でき、教師の教材研究やテストづくりなどにも役立ちます。是非、御検討をお願いします。

(8)については、3年生以上の児童にタブレットセキュリティソフトが導入されていますが、小学1～2年生にもセキュリティソフトを導入し、A I型ドリル導入とともに持ち帰り学習ができるようにしていただきたい。加えて、今後も要保護、準要保護家庭に貸し出しをしていたWi-Fi機器をWi-Fiがない家庭にも貸し出しをしていただき、オンライン学習などができる家庭でも行える環境を整えていただきますようお願いいたします。

(9)については、現在の児童生徒用学習機の広さでは、教科書やノートに加えてタブレットまでにおいて学習ができない状況です。現在ある机に「天板拡張くん」という天板拡張器具を取り付けていただくと、タブレットを落とすことなく机の上に置いたままで、資料集とタブレットを併用できます。引き出しからタブレットを出したり、保管庫から出し入れしたりする必要がなくなり、児童生徒も落ち着いて効率よく学習に臨めると考えております。是非、御検討をお願いいたします。試験的に小規模校（多賀小・山本小）に設置してみても、教室内に他校もおけるのかを検証してみたいと思います。なお、置く場所がなく床の上に置くことによって、故障の原因につながることも考えられます。

(10)～(12)については、バス代等の交通費の補助をお願いできたらと考えています。特に(11)については、6学年10名程度の小規模校が単独で修学旅行に行くとすると旅費が他校と比べ多く

かかります。交通費の補助だけでも助かりますので、是非是非、御検討お願いいたします。

(13)については、熱中症対策についてです。今年は、夏日が100日を超える異常気象でした。次年度も暑さ対策に慎重に向かい合っていかなければなりません。たくさんの予算が必要になってきますが、体育館における空調設置をお願いしたい。それまでに、小学校には冷凍庫の設置（クールネックリング、冷タオル等の保管）、中学校には製氷機を設置してほしい。いずれも、体を冷やすために児童生徒の安心安全にもつながるものと考えている。

施策目標Ⅳについても、(1)から(4)と多くの支援をいただいております。次年度も継続をお願いします。町立図書館とは関係はないですが、学校図書の充実という観点から本年度図書購入予算を増額していただきありがとうございました。令和8年度までに、児童生徒の学びに生かせる図書の購入を図ってまいりたいと思います。

(5)については、多目的トイレの設置及び児童トイレの洋式化をお願いできたらと考えています。病気やけが等による身体的な支援が必要な児童生徒が出てきたときにトイレに不自由さを感じる人が多い上、学校は高齢者や身体的な制限のある方が来校して児童生徒と交流したり災害の時に避難してくる避難場所になったりするものの、トイレ等の問題で来校を遠慮されたり避難したくてもできなかったりする現状があります。是非、誰もが気持ちよく使える学校トイレのバリアフリー化の検討をお願いいたします。

また、ここには挙げておりませんが、災害が発生した時、テレビにて災害情報を得ることも多々あると思いますが、テレビ回線が校長室又は職員室に1か所だけしかない状況です。できれば、校長室及び職員室の2か所に設置していただけると情報共有の幅が広がると思います。

校長会として、様々な要望をいたしました。すべて要望どおりにいかないと思いますが、川南町の児童生徒の未来への投資、子育て世代への投資を可能な限り実現して、子どもたちが希望をもって生きていける町づくりをしていただきますよう改めてお願いいたします。

以上で、説明を終わります。

#### ○教育長

ありがとうございました。社会教育関係も聞いてから、意見交換に入りたいと思いますので、社会教育関係の説明をお願いします。

#### ○島岡代表

社会教育委員代表の島岡です。よろしくお願いします。

去る9月26日に第1回の社会教育委員会議を行いました。その中で、地域学校活動推進員、スポーツ推進員、図書館協議会委員、文化ホール運営協議会委員、文化財保護審議会委員の代表の方々からの御意見を賜りまして、その内容をまとめさせていただいたものに社会教育委員の意見を加えまして、お手元に配付しております要望書を作成しました。その資料に基づき説明をさせていただきます。

社会教育の現状と課題ということで、5点をあげさせていただきました。まず、地域学校協働活動についてであります。地域での活動や外部講師派遣の情報が共有される仕組みこそ、地域学校協働本部の役割なので、学校との連携強化が必要。例えば、曜日を決めて、各学校に推進員が常駐する日を設けると、教員と推進員のつながりが生まれ、連携強化につながるのではないかと。推進本部の位置づけを明確にするため例規等の整備が必要ではないかと。事業に協力していただいている地域の方々にはボランティアで活動しており、金銭的補償はないが、何らかの配慮は必要ではないかと。企業や農業従事者が社会貢献の一環で参加しているケースもあるが、負担が大きいのか。

ではないかとの懸念がある。という意見が出ています。

次に、文化財の保護としましては、川南湿原の木道の腐食が進んでおり、早急な補修・再整備が必要。部分的な補修では追いつかない。設置後耐用年数の15年が経過しているので国や県に要望する必要がある。大規模改修に向け、計画を立てて手続きが必要となっている。

後牟田遺跡の範囲確認調査を行うことが必要となっている。の2点が挙げられています。

3つ目は、スポーツ推進員からの意見として、生涯スポーツの推進ということで、福祉課所属の地域おこし協力隊員や新たな担い手の加入により、推進員活動に若返りが見られる。これまでは顔ぶれが長年変わらなかったが、近年は新しい人材の参画が進んでいる。という良いことがあったようです。また、町民の中には、スポーツ推進員の存在を知らない人も多いため、PRや広報が必要。推進員は、ニュースポーツの指導やイベント参加を通じて積極的に活動している。以前はグラウンドゴルフ中心だったが、現在はカローリング、キンボール、ボッチャなど新しい種目が増えている。このため、指導ができる人材の確保・育成が課題という意見が出ました。

4つ目の図書館の利用については、図書館協議会の代表者から意見をいただきました。自己評価として、定期的に協議会が開催され、運営は概ねうまく進んでいる。読み聞かせなどの取り組みも行われており、活動は評価されている。とのこと。また、若い世代の利用が少なく、ネット社会の影響で本を読む場所としての需要が低下しているとの認識もある。他の図書館のように、カフェを併設されるなど、これまでの「静かに、大人しくする場所」から、来館しやすい場所へと変化する必要があるのではないかと。この意見もありました。さらに、夏のクーリングシェルトー的な活用も考えられる。図書館は、本の貸出だけでなく、展示・イベント・文化発信・交流拠点として役割を広げていくことが求められている。ということでした。

5つ目は、文化ホールの活用についてです。文化連盟の会員減少で、従来の発表会（文芸・美術・芸能）を単独で行うのが困難となった。昨年度より2月11日の生涯学習大会では町と文化連盟が合同開催している。限られた予算・人材を有効活用し、持続可能な生涯学習・文化活動環境を構築することが課題となっている。という意見が出されました。

以上のとおり、現状と課題として5点が挙げられました。

次に、課題解決に向けて協議した結果について説明をします。現状と課題で説明しました項目とは相違があります。理由は各委員の意見を受けて、社会教育全般を一番目に持ってきたところからです。

まずは、社会教育全般については、人口減少により人的・財政的に厳しい状況。社会教育事業は短期的な成果が見えにくく、長期総合計画に盛り込み、中長期的なビジョンを基に取り組んでいくことが必要。という認識をしています。また、事業の見直しや統合、廃止を含めて持続可能な生涯学習環境を目指す必要がある。日本三大開拓地小学生交流事業については、教員や役場職員による引率・管理には限界があり、外部委託を検討しても良いのではないかと。という意見が出ました。

2つ目として、地域学校協働活動については、予算的措置については、国の推進すべき事業として位置付けられているので補助対象事業となっているが、学校への半常駐化の推進などによる手厚い支援を行うためには、推進本部の規模の更なる拡大も必要になってくる。令和7年度は推進員の増員を行っているが、引き続き人的、財政的支援双方の強化をお願いしたい。さらに、事業の協力者の方々への御礼や湯茶程度の支出も考えて良いのではないかと考えます。

3つ目は、文化財の保護ということで、川南湿原の大規模改修をお願いしたい。川南古墳群に

「〇〇号墳」の標柱設置をお願いしたい。という２点が要望として挙がっています。

４つ目は、生涯スポーツの推進ということで、カローリングについては町のスポーツ大会でも位置づけられており、今後セット数を増やす方向で予算要求を予定しているの、是非お認めいただきたい。町内の観光スポットを活かした歩こう会や健康増進を目的にした地域ごとのウォーキングコース設定や案内看板整備をしてはどうか。民間事業者の歩数連動ポイントサービスと連携するような仕組みの導入を検討してはどうか。という意見が出ました。

５つ目の図書館の利用については、何らかの形で移動図書館を開設してはどうか。導入の検討をお願いしたい。課題でも触れているが、来館しやすい図書館への改修等の検討をお願いしたい。との意見が出ています。

６つ目の文化ホールの活用については、町制施行記念行事等において、参加者の増加が見込めるような工夫をお願いしたい。との要望が出ています。

我々社会教育委員と各委員から出ました意見をまとめたものが、上記のものとなりますが、少し漏れがあるということで、付記事項としてまとめました。

令和６年度に社会教育委員会議として答申した「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて、推進本部事業を含めた持続可能な社会教育全般の振興を目指すことが必要。文化財保護審議会から出された要望に関しては、平成１０年度に行われた植生調査から２７年が経過しているので、植生の遷移状況を確認するための植生調査を含めた大規模改修が必要。文化財保護審議会の要望事項に盛り込まれてはいないが、松山陣の保存保護を県及び木城町と連携しながら進めることが必要。

上記３点の必要事項については、単年度で結果が見込めるものではなく、中長期的な観点で推進するため、実施計画及び長期総合計画に盛り込み、時々状況を見ながら修正しつつ、必要な人的、財政的な措置をお願いしたい。

以上が、社会教育分野の説明となります。よろしくお願いします。

○教育長

ありがとうございました。それでは、質疑も含めた意見交換を行いたいと思います。何かありませんか。

○日高委員

質問です。学校教育関係の施策目標Ⅲの（７）で説明のありましたロイロノートとはどのようなソフトなのでしょう。

○谷口校長

例えば、通常、付箋紙に書いて紙面上で行っている作業をパソコン上でやり取りができ、子どもたちの考えを容易に共有できるようになるソフトになります。簡単に言えば、アナログからデジタルへ変換することで、時間の短縮が図れます。

○椎木委員

学校教育に関して、数点質問があります。まず、施策目標Ⅱの（３）公営塾についてです。小学校６年生は希望せずと記載してありますが、そもそも６年生には希望者がいなかったのか、それとも対象から除外した要望ということでしょうか。

もう一つは、施策目標Ⅲ（１）人的配置⑨技術員の学校１名配置の説明の中で、配置が難しい場合は、刈払い機を各校には置いて欲しいとの要望がありました。刈払い機を学校に置くことになると機械の保管場所や燃料の管理、また作業をするのは管理職になるのではないかと考えら

れますが、怪我等の心配もあり負担が増加するのではないかと懸念があります。いかがお考えでしょうか。

○三浦校長

現在の公営塾は、高校受験対策として中学校3年生を対象として運営していただいております。校長会としては、小学校6年生から中学校全学年へ拡大して欲しいと要望するつもりでしたが、委員会より塾講師の確保が難しいとの話を事前にお聞きしましたので、小学校6年生は除外し、中学生のみで要望させていただきました。

2点目については、近年の暑さのせいか雑草の成長が早いように感じます。技術員に作業をお願いし、学校へ来ていただくまでに、見苦しさを感じることもあり、自ら作業したことが10数回あったところです。椎木委員の御指摘のとおり、保管について、本校は農具倉庫があり、施錠もできますので、心配はないのですが、他校の状況は把握できておりません。また、作業についても、校長、教頭の管理職が行うことになると思います。私は、刈払い機の講習を受け作業をしていますが、本町の全ての管理職が講習を受けてはいないと思います。しかし、機械がない事には作業が出来ませんので、技術員1名の配置が難しいのであれば、機械の導入をお願いしたいとの思いです。

○染川委員

私が以前、唐瀬原中学校の学校運営委員をしていた時に見た授業参観の光景を思い浮かべると、施策目標Ⅲ(9)のタブレット用「天板拡張くん」の導入には納得がいきます。私たちの頃は、教科書の規格はB5判でした。現在はA4判になり、さらに、タブレットまで載せると机上は、余裕がない状態になっています。よって、この「天板拡張くん」の導入は、現状に合ったものだと感じました。

○教育長

御意見としてお受けします。他に御意見はありませんか。

○椎木委員

「天板拡張くん」の保管はどのようになるのですか。机に付けたままなのか、それとも使用のたびに取り付けるのか。もし、取り外す必要があり、どこかへ保管しなければならなくなると、川小や唐中は、場所がないのではないかと思います。

○三浦校長

一度取り付けたら、外すことはなくそのまま使用することになります。少し補足します。前任校で、この天板拡張くんを使用していました。タブレットが落ちない作りになっています。非常に役に立っていました。

○日高委員

保護者としての意見ですが、AIドリルの導入は出来ればやっていただきたいと思います。現在は、タブレットをほとんど持ち帰っていないので、AIドリルを入れることによって、宿題として利用するなど、持ち帰らせて家庭学習を充実させるシステムになるといいのかなと思います。

○谷口校長

現在は、長期休業の前に持ち帰らせていますが、普段もししっかりと管理が出来れば持ち帰らせることは可能です。御意見ありがとうございます。

○教育長

学校教育関係の意見がなければ、社会教育関係の質疑はありませんか。



○椎木委員

(4) 図書館の利用の中で、他の図書館のように、カフェを併設するなど、これまでの「静かに、大人しくする場所」から来館しやすい場所にする必要があるのではないか。とありました。以前、教育委員の研修で都城図書館に行ったことがあります。その時、市民の方、特に若い世代の方が多く利用されている印象を受けました。その後、子どもを連れて行きましたが、子どもも楽しそうにしておりました。あまり小さい声で話さなくてよいし、探したい本はすぐに見つかる、カフェもあるので親はゆっくりできるという感じでした。本町もすぐにカフェの設置となると予算も伴いますので、難しいとは思いますが、資料にあるとおり静かにしなければならないという感覚を変えてもらいたいと思います。また、町の図書館は厳格化されているイメージがあるとの意見も聞いています。行きやすい雰囲気づくりをすることが必要なのかと思いました。

質問です。この夏は、クーリングシェルターとしての利用をされたと思いますが、利用状況が分かれば教えてください。

○島岡代表

クーリングシェルターとして利用された方の把握は出来ていません。

○教育長

他に意見はありませんか。

○町長

校長会からたくさんの要望が出されました。その中で、どの項目を優先するのか、優先順序を決めていかなければならないと考えています。子どもたちの教育環境を整えるのは大事なことです。予算を伴うことですので、教育課と協議しながら進めていくべきだと思っています。熱中症対策については、管理者の責任として、しっかりと対応するように指導がきておりますので、考えていかなければなりません。人員が一番大きな問題なのかと思います。募集を掛けても応募がないと聞いております。教員の資格を持っている方の洗い出しも必要になってくるのではないかと考えます。近隣も含めて、そのような取り組みを考えていけると良いと思います。それから、社会教育委員からの要望について、今、川南町が一番考えているのは、公共施設の活用が非常に低いということです。文化ホールにしても図書館にしてもそうです。役場庁舎にしても同じです。今、一つのきっかけとして、議場の活用を議会事務局も前向きに考えてくれています。まずは、小中学生に開放する計画を進めています。

今日、全ての事項に答えを出すことはできませんが、いただいた御意見を参考に考えてまいります。

○教育長

ありがとうございました。他に意見はありませんか。

意見も出尽くしたかと思いますが、それぞれの思いを十分受けさせていただきました。本当にありがとうございました。小中学校校長会の三浦校長と谷口校長、それから社会教育委員代表の島岡様におかれましては、ここまでとなりますが、今後ともそれぞれの充実のために御尽力いただきますようお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

<三人退席>

○教育長

それでは、引き続き、「5 協議」に入ります。教育施設及び予算等についてですが、事務局から何かありますか。

○課長補佐

先ほどの要望事項について、もう少し詳しく聞きたいということがあれば、担当係長も来ておりますので、御質問をお受けいたします。

○教育長

何か質問はありませんか。

○椎木委員

2点質問です。まず、ジャストスマイルからロイロノートに変わった場合、予算は増額となるのですか。次に、W i - F i 環境が整っていない家庭への支援はどうなっているのですか。

○指導主事

変更になると予算は増額となります。現在、子どもたちが使っているタブレットはウィンドウズで、ジャストスマイルとの互換性が非常にあると思います。そのようなことから、タブレット導入時にジャストスマイルを入れたという経緯があります。ロイロノートとウィンドウズは、互換性があまりよろしくありません。ロイロノートを入れている宮崎市などは、i P a d を使っています。川南町は、宮崎市から異動される先生方も多ウィンドウズートを要望されますが、ロイロノートとウィンドウズがセットになると、動きが遅くなり、使い勝手が悪くなるというデメリットもあり、現在は導入していないところです。そして、来年度グーグルのタブレットに変わりますが、グーグルが提供する無料のもので、ロイロノートと同様の働きが出来るものもあります。

○橋口

補助要件に適合する家庭への調査を行い、W i - F i 環境が整っていない家庭へは、モバイルルータの貸し出しを行っています。

○教育長

一つ一つの項目については、今後協議を行いたいと思います。町長からも言われました優先順位については、校長会とも詰めていきたいと考えております。それでは、次の協議事項に移ってもよろしいでしょうか。

＜はい＞の声あり

○教育長

次に、第3次川南町教育振興基本計画について、事務局の説明をお願いします。

○教育対策監

第3次川南町教育振興基本計画案について説明させていただきます。

なお、事前に資料を配付させていただいておりました。本体と概要版をもとに説明いたします。

まず、計画全体の構成についてご説明いたします。お手元の資料、表紙をめくっていただくと目次となっております。本計画は全4章で構成されております。

6、7、8ページをご覧ください。ここには、第1章「計画策定の趣旨」を記載しております。これまでの計画の成果と課題、予測困難な時代といった社会状況の変化を踏まえ、本計画のスローガンや基本的な考え方について説明しております。

9ページをご覧ください。ここからが、本計画の背景となる「社会情勢と教育を取り巻く変化」です。7つの視点で現状を分析しております。まず「人口減少・少子高齢化の進行」を挙げております。

10ページをご覧ください。「予測困難な時代の到来」です。AI や Society5.0 といった技術革新が加速し、働き方や暮らし方が劇的に変化しております。

11ページをご覧ください。「子供の育成環境の変化と多様な教育課題」です。不登校、いじめ、特別支援教育ニーズの増大に加え、子供の貧困やヤングケアラーなど、課題が多様化・複雑化しております。

12ページをご覧ください。「人生100年時代の到来」です。生涯にわたる学び、いわゆる「学び直し（リカレント教育）」の重要性が高まっています。

13ページをご覧ください。「大規模災害への備え」、「教職員を取り巻く環境の変化」を挙げています。特に「教職員の働き方改革」の加速化は、国の大きな動向でもあります。

14ページをご覧ください。計画の背景となる「国の教育政策及び県の教育振興基本計画の動向」を記載しております。国の第4期計画や県計画では、ウェルビーイングの向上、GIGAスクール構想による個別最適な学び、SDGsの推進などが示されています。本町の計画も、これらの国の動向を踏まえて施策を推進していく必要があることを説明しております。

15ページをご覧ください。これら7つの背景を踏まえ、「計画の性格」と「期間」を示しております。期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間です。

16ページをご覧ください。続きまして、第2章「計画の基本理念」についてご説明します。計画の根幹となります「スローガン」です。これは第2次計画から引き継ぐもので、「ふるさと川南を愛し 未来を拓く 心豊かでたくましい 川南の人づくり」を掲げております。

17、18ページをご覧ください。「目指す町民像」です。スローガンを具現化する姿として、そこに示す3つを設定しております。

19、20ページをご覧ください。計画を推進する上での「基本姿勢」です。ここでは2つのキーワードを重視します。1つ目は「横の連携」です。これは、学校、家庭、地域といった従来の連携に加え、企業やNPO、福祉・医療機関など、多様な主体が分野の垣根を越えて連携・協働することを指します。まさに「町民総ぐるみ」で教育に取り組む姿勢です。

21ページをご覧ください。2つ目は「縦の接続」です。これは、幼児期の教育から小・中・高、さらに大人の学び直しまで、ライフステージを通じた学びを切れ目なく接続することを指します。

23ページをご覧ください。これら基本理念に基づき、「基本目標」を4つ設定しております。

24ページをご覧ください。ここには「施策の体系」として、ただいまご説明したスローガンと4つの基本目標、そして、それらを実現するための具体的な15の施策を一覧にした体系図を掲載しております。これらの方針のもと、第3章以降で具体的な施策を展開してまいります。

25ページをご覧ください。基本目標Ⅰ「町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進」では、次の2つを基本施策として推進します。

施策1「生涯学習の推進」では、町民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学べる環境を整え、その成果を自己実現や地域貢献に繋げる「学びが循環する社会」を目指します。

施策2「地域と学校の連携・協働の推進」では、学校、家庭、地域に加え、企業やNPOなど多様な主体が連携・協働する「社会総がかり」で子供たちを育む体制を強固にし、学校を核とした持続可能な地域づくりを進めます。

26ページをご覧ください。基本目標Ⅱ「社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進」では、次の8つを基本施策として推進します。

施策3「読書の町づくりの推進」では、子供から大人まで全ての町民が読書に親しむ環境を整備し、生涯にわたる学びの基盤と心豊かな人生の実現を目指します。

施策4「幼児期の教育の充実」では、生涯にわたる人格形成の基礎を培うため、質の高い教育・保育内容への支援や、関係機関と連携した切れ目のない子育て支援体制を構築します。

27ページをご覧ください。施策5「確かな学力を育む教育の推進」では、「児童生徒の学力向上」と「授業改善の推進」を柱とし、データ分析に基づく研修や外部人材の活用などを進めます。

施策6「人権を尊重し豊かな心を育む教育の推進」では、「人権教育」や「道徳教育」、「体験活動」、「文化芸術活動」などを充実させ、「いのち」を尊重する意識及び自己肯定感の醸成に取り組めます。

28ページをご覧ください。施策7「特別支援教育の推進」では、多様化・増大するニーズに対応するため、関係機関と連携した切れ目のない支援体制を構築し、インクルーシブ教育システムの理念に基づき共生社会の実現を目指します。

施策8「郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育の推進」では、学校と地域が一層連携し、ふるさととの多様な魅力と課題に触れる探究的な学習等を通じて、子供たちの郷土への誇りと愛着、地域社会を担う当事者意識を育みます。

29ページをご覧ください。施策9「キャリア教育の推進」では、変化の激しい社会を生き抜き、ふるさと川南の未来を創る人材を育てるため、各学校段階を通じた体系的な指導と、地域と連携した実践的なキャリア形成支援を推進します。

施策10「社会の変化に対応した多様な人財を育む教育の推進」では、グローバル化や技術革新に対応するため、国際理解教育、科学技術教育、教育DXを含む情報化、環境教育などを総合的に進め、多様な人財を育成します。

30ページをご覧ください。基本目標Ⅲ「教育を支える体制や環境の整備・充実」では、次の3つを基本施策として推進します。

施策11「教職員の資質向上と学校における働き方改革の推進」では、教職員が心身ともに健康で子供と向き合う時間を確保できるよう、働き方改革を加速させ、チーム学校体制の強化を図ります。

施策12「安全・安心な教育環境の整備・充実」では、自然災害、不審者対応、いじめ、不登校など多様な課題に対応するため、関係機関との連携による重層的な安全体制を構築し、学校施設の整備や実践的な安全教育を推進します。

31ページをご覧ください。施策13「魅力ある多様な教育の振興・支援」では、児童生徒数の減少や多様な教育ニーズに対応するため、学校規模の特性を生かした教育や小中高の連携を推進し、経済状況に関わらず学べる修学支援を充実させます。

32ページをご覧ください。基本目標Ⅳ「文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進」では、次の2つを基本施策として推進します。

施策14「文化の振興」では、担い手不足等の課題に対応し、町民誰もが生涯を通じて文化芸術に親しめる環境を整備するとともに、地域の文化資源を保存・継承し、地域活性化に活用します。

施策15「スポーツの推進」では、令和9年の国民スポーツ大会を契機とし、誰もが生涯にわたりスポーツに親しめる環境を整備し、部活動の地域展開や学校体育の充実を通じて町民のウェルビーイング向上を目指します。

以上、掲げた目標の達成を目指し、計画の実効性を確保するため、進捗状況を点検・評価しながら、町民の皆様との協働、いわゆる「町民総ぐるみ」で、本町の教育を力強く推進してまいります。

す。

子供たちに「川南町で育って良かった」、保護者の皆様に「川南の学校に通わせて良かった」、町民の皆さんに「川南で暮らして良かった」と思っていたけような教育に努めてまいります。30、31ページに戻っていただきます。特に、目標Ⅲは、教職員の働き方改革（施策ⅠⅠ）、そして子供たちの多様な学びを支える（施策ⅠⅢ）といった、本町の教育全体を支える基盤となる重要な目標であります。

その中でも施策ⅠⅡ「安全・安心な教育環境の整備・充実」は、中学校統合を考える上で最も重要な視点の一つと考えております。

資料の134ページをご覧ください。ここには「老朽化（長寿命化）対策の推進」や「防災機能の向上」が示されております。これは、統合校舎を整備する上での物理的な安全確保、ハード面の大前提となります。

一方で、136ページをご覧ください。施策ⅠⅡには、「いじめ及び不登校の防止」も含まれております。「児童生徒にとって魅力ある学校づくり」を進めること、138ページにあるように「不登校児童生徒を支援するための体制を整備」すること、これらは「心の安全・安心」を確保するソフト面での重要な取り組みです。

中学校統合は、資料143ページにも「統合に向けた計画的な取組の推進」とあるとおり、単に校舎を新しくするだけではございません。新しい環境において、全ての生徒が安心して通える、136ページの言葉を借りれば「魅力ある学校」をいかにして実現するか。また、環境の変化に不安を覚える生徒や、特別な支援を必要とする生徒たちの心のケア、相談体制をどう構築していくかが、まさに問われております。

つきましては、統合後の新しい学校が、ハード面での安全性はもとより、全ての生徒にとって「心の安全・安心」が守られる居場所となるために、どのような点に配慮すべきか。物理的な環境整備と、心のケアや支援体制の整備、この両面から、皆様の具体的なご意見などをいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

○教育長

ありがとうございました。質疑のある方はよろしくお願いします。

○日高委員

意見になります。災害対応は、一刻を争うものになります。現在、いつ災害が起こってもおかしくない状況となっています。子どもたちが学校で被災しないように早めに防災対策をしていただきますようにお願いします。

○染川委員

私も同じ意見です。学校は、安心安全なエリアでなければならないと思います。昨年も学校に不審者が侵入し、先生が負傷するという事件が起きました。大阪の池田小学校の事件以来ずっと心配しているのですが、新しい中学校を作るということであれば、安全面も是非強化していただきたいと思います。

○教育長

ありがとうございます。他に何かありませんか。

○町長

私は、新中学校のハード面で大事なことはコストを抑えることだと思っておりました。先日、教育委員会の説明を聞き、子どもたちの安心安全を考えた構想案は腑に落ちたところです。ソフ

ト面については、ここで学んでよかったと思える特色ある運営をしていただけたらと思っています。魅力ある学校ができれば、学区を越えて子どもたちが集まる可能性もあると思いますので、教育委員会では今後とも御尽力をよろしくお願いいたします。

○教育長

ありがとうございます。特色ある学校ということで、各学校が特色を出そうとしていますが、その特色を魅力まで高めていかなければ、子どもたちが集まってはこないかと思しますので、ハード面だけではなく、ソフト面も含めて魅力ある新たな学校がスタートできるように、教育委員会一丸となって頑張りたいと思います。他に何かありますか。意見がないようなので、これで協議を終了したいと思います。協議が終了しましたので議長の任を降りたいと思います。御協力ありがとうございました。

○橋口

ありがとうございました。会次第には、その他はありませんが。何かございますか。その他になれば、以上をもちまして令和7年度第2回総合教育会議を終了します。お疲れ様でした。

上記は、令和7年度第2回川南町総合教育会議のてん末に相違ないことを証明する。

令和7年11月27日

川 南 町 町 長

宮崎吉敏

川南町教育委員会 教育長

平野博康